12.11.8
597回

以下(?)…医(?)…氏、

同君は息子(?)太郎を殺されて以来、何故か固く沈黙を守り、何事も語らなかつたが、同君を訪問したところ、相田(?)久太郎は度(?)重なるや、よし不在であり、同君は近藤(?)君が太郎送還(?)の遺骸の整理に忙を極めてゐる。他は近藤(?)太郎君のみで、静かなものであつた。同君は実に(?)、宗輔(?)弱蔵(?)氏・和田(?)署長の見解を仰らで(?)ゐつた(?)。同じく自分は自分の知る限りでは目下彼等の沈黙してゐる理由は、恐らく謙虚(?)らのであらうと思ふ、何故ならば震災当時のあの民衆の主義ある若しくは何事かの主義的傾向あるものに対する態度であつた、それは面白いけど、当事者どもの悲哀を帰感して、自分の由つて来るところを観じてみれば、今此の際何の彼のと議論するよりも、先づ自分から推し内省一番しなければならぬと考へたのではなからうか、自分は当時、彼等を検束するとき、君

財團 協調會